

磯 浜 志

水戸 後藤 興 著

磯浜村

先年宮田
村ト言フ

常陸国鹿島郡ニ在東三十二町 南北十余町 東南面干
海岸 北根干涸沼河 西堺干大貫村

田 畝 石数

高千九十三石三斗五升四合 田 畠

屋敷

六十石六斗七升九合 田 四十七石四斗八升五合

畠 十三石一斗九升四合

残千三十二石六斗七升五合

田 三百廿六石七斗三升九合 四ツ七分

畠 五百三十三石二斗二升二合五ツ八分

田 四十三石三斗一升七合 一ツ七分

田 三十六石四斗四升三合 一ツ取

田 八十一石一升 五合 四ツ四分

田 十二石三升 九合 一ツ取

高 九十三石三斗七升八合 右之外新田分

残 八石四斗五升一合 万水引
八十四石九斗二升七合

田 四石二斗三升九合 一ツ五分

田 二十七石九斗五升四合 三ツ六分

田 三十一石五升 二合 一ツ五分

田 九石二斗一升四合 二ツ三分

田 十二石 五分取

家数

八百六十八軒 天保中ノ写

元禄ノ此ヨリハ二百軒余モ増

人別

三千七百二十四人 天保中ノ写

男 千九百九十人

女 千七百三十四人

宿街名

明神町上側 ホシカバ除ヨリ 横町マデ

下側

一丁目上側 一丁目横町ヨリ ケツ横町マデ

下側

仲町 一側 ケツ横町ヨリ 沢石橋マデ

金沢町一側 石バシヨリ御制札マデ

通り町向上 制札場ヨリ横町マデ

永町字浜側 御陣屋入口横町ヨリ髭釜堺横町マデ

髭釜町一側 永横町ヨリ大貫堺マデ

千手町 二丁目ノ北ヨリ北養福院ノ下ヨリ

磯宮田古来干創ノ関根某東明寺近辺住居 今関根屋

シキト言

文禄癸巳初テ海岸為街中町カ始左右継横カ街宇蕃矣名曰

仲町

正月七日 御戸開祭

三月日即不定 大々(太々)御神楽

六月晦日 御祓

七月七日 御虫干

八月朔日 祭礼 本縁ニ許ナリ

八月上子日 新嘗祭

九月廿五日 祭 本縁許ナリ

十一月朔日 湯立

十一月十日 神田祭

十二月廿一日 神田祭

諸家日記ニ見ルニ 先年大山民部大洗山普賢院 今大里村

光明山来迎院

鎮守大洗大神宮

祭神大己貴命少彦名命両神也 下略

本縁曰 旧古本社在今神祠之山上 其址宏壯 所撰小社

元四十余社神戸不下一千戸 祭礼極力豊厚 永禄中経小

田氏知乱悉羅兵 祠宇蕩尽神戸亡僅存百分之一 祠宮不

能復古構小祠宇干海濡云々

社祠旧古ハ山上ニ建玉ヘルヲ 文禄中小田氏知天菴ノ為

ニ罹兵海濡ニ小社ヲカマヘ玉ヘルヲ 元禄二年山ノ中腹

ヘ国君御建立 其後享保十九年山上ヘ村ニテ建立ス

八月十八日遷宮 其後寛政八年今ノ処ニ引

御戸開祭

大々(太々)御神楽

御祓

御虫干

祭礼 本縁ニ許ナリ

新嘗祭

祭 本縁許ナリ

湯立

神田祭

神田祭

是ナリ 両支配也 其後大山民部絶家ス 佐竹義宣ノ郡代

人見主膳令大学院老僧カ両支配 其後小野玄蕃郡代ノ砌大

塚大蔵ヘ祭礼免ノ内三分ノ二ヲ渡ス 三分ノ一ヲ大学院ニ

分ケ与フ

故神田祭今祈祷ス 天保三癸亥因義公之命別当普賢院大

里村ニ曳寺 領祠宮ニ下サル唯神道改変而 大塚伊勢守

一人ニナル 寺領五斗五升三合

幕府所賜朱印文

常陸国茨城郡宮田村鬼洗明神社領 同郡吉田村之内拾石事

四季祭礼

任先規令寄附之説全可収納云々

慶安元年十月廿四日 朱印同文

貞享二年六月十一日 朱印同文

愚按スルニ 御朱印ニ茨城郡トアルハ不審 国誌ヲ按スルニ茨城郡ノ地至東海 南ハ鹿島行方郡地 相錯又鹿島郡ノ地東臨東海 西ハ与行方郡地相望界以箕輪派江 南又至箕輪大江為 限東垂至海口与下総国香取郡相对北与茨城郡地相錯ハ非茨城郡ノ地昔属茨城郡ノ地ト云

貞享ノ此ハ茨城郡ノ義ナシ 旧記ヲ以テ茨城郡ト認誤レリト見ヘタリ 鬼洗明神ト云ヘルトモ不審ス 文徳実録ニ大洗磯前トアリヌ 寛永中所撰ノ国誌ニモ小幡故城ノ条下ニ大洗磯前トアリ 慶安ヨリ二十年前大洗トアテ 其後鬼洗ト認シ事ハ甚々不審也 石川又徴云鬼洗ノ名ハ上古追儼ノ事ヨリ起リシト云ヘリ 近世マテモ鬼洗明神ト称セシト云ヘリ 寛文三年寺社改ノ書出シニモ鬼洗明神トアリ

撰社末社

与利幾神社

大洗境内西方ニアリ新降神ヲ祀ル也 安永六丁西十一月十八日海浜ニ神木漂着ス土人異トシテ之ヲ祀ルト云

宇佐八幡

瑞垣ノ東脇手水舎ノ傍ニアリ 祝町ノ鎮守タリ 元禄三年庚午天妃神御建立ニ付テ大洗社中ニ移シ 撰社トス

清良権現

萃表ノ脇ニアリ 国誌曰八田知重第三子光重食邑小幡之地因為小幡氏光重後任中務々々有故天文元年八月朔日夜 夜拜大洗磯前神江戸但馬守出兵遮路中務隕命小幡氏 滅但馬守家臣出雲守之々々

清良権現ト崇 末社トス 幹規筆記曰小幡出雲良清字祐円 天文元壬申八月朔磯浜道ニ来ルヲ 水戸城主江戸但馬守通泰卒軍遮路 終於此地打取 同月廿一日小幡城所援出雲守家臣離散シテ落ヲ 民間出雲守息中務大輔佐竹義宣ニ降ル禄五千石ヲ賜ヒ東中務大輔ト改ム 本文ニハ但馬守之臣トアリ筆記ハ小幡出雲守トス孰レカ是ナルヤ

天照皇大神宮

稻荷神社

豊年神社

烏帽子石神社

本殿ノ良ノ方ニアリ 本殿ノ乾 同所 本殿ノ西三十間ニアリ 祭神猿田彦命

加都保神社

与利幾ヨリ東二十間程ニアリ 歳正月三日
神磯ノ辺ニ松魚自ヲ上リタルヲ漁人異トシ
テ祀レリ

関根神社

ト 旅人守護タメ祭リト見ヘタリ
関根氏ノ守護神ナリ 貞享中迄ハ関根七兵
衛ニテ祭リ ソノ後絶家ニテ末社トナル

龍神

本瀧ノ上センカミト云処ニ在 罔象女神ヲ
祭レリ

寺社修驗

御手洗川

石ノ鳥居ノ西ニ在 水源ハ三十間程上ノ谷
合ヨリ湧出ルナリ 本瀧ト云 径尺計リナ
ル横穴ヨリ出ル

浄土真宗

大綱山願入寺

天妃神社

境内六畝歩 祝町下ニアリ
天妃ノ事情俗記聞 此神寿昌山開基心越禪
師持来ルヲ 文禄三年庚午四月六日先君義
公御祭リナル云 先年ハ社領ニ大燈ヲ拵レ
毎夜灯明ヲ掲サセ 海上ヨリノ認トス 中
絶シタルヲ 天保四年又上公ノ思召ニテ石
トウロウヲ仰付ラレタリ 祭日三月廿三日

如信

本願寺ニ世願入寺開基正安二年
常州金沢ノ道場ニヲテ迂化ス

浄如

曆応三年
迂化ス

空如

貞治二年
迂化ス

如峇(コウ)

応永七年
迂化ス

空円

応永十九年
迂化ス

純如

永享二年
迂化ス

源如

延徳元年
迂化ス

(註:「思召」の「召」は、原文では「欠」であるのを適宜
補ったものです。間違っているかも知れません。)

道路祭神

髭釜街北ニアリ 祭神猿田彦命 此社古社
ニテ榎ノ大木ニ祭ルト云ウ 知ス磯宿通ナ
キヲ以前大貫塚ヨリ此社ノ前ヲ通り池端ヨ
リ今往還横キリテ通リトス里人ノカタリキ

如慶 明応九年

遷化ス

如賢尼 天文三年

遷化ス

如了 元龜二年遷化ス 母如賢尼ハ明賢大根田ヨリ同国

菅谷村へ移ル 石神へ隠居シ 願入寺ハ如正ニユ

ズル

如正 寛永十五年遷化ス 母額田氏 江戸家と額田家ト

合戦ノ時菅谷村ヨリ額田村天神小屋ニ僻ニ住居ス

文祿ノ年佐竹義重ノ招ニ応シ久米村ニ移ル

如明 寛永十一年遷化ス

如観 寛文六年遷化ス

如晴 号慧明院願入寺 延宝二年水戸公ノ招デ京都ヨリ

下ル 磐船山中興開山ナリ 本願寺常如真弟

寺領三百石 石崎 寺内五万二千坪余

金上 二在 内九千九十八歩関根又兵衛寄附

修理免三十八石八斗七合 宝永二年五月岩船下ニ下サル

延宝二年甲寅久慈郡久米村ヨリ曳寺ニナル 其後元禄元

戊辰京都ヨリ恵明院下ラレ候 此年沖ノ洲御寄附ニナリ

祝町ト改ム、文政十三年山御寄附長六十間 浜側人家衰

横八間

通長百十間 二口此畝五反三畝歩

横八間

願入寺境内内御国八景ノ一磐船夕照アリ

寺中八ヶ寺

西念寺、正受寺、正安寺、法泉寺、林清寺、西円寺今廢

西行寺、来船房(坊)今廢

天台宗世良開山俊明山西福寺無量院

中興開山光海

除地高十石六斗八升五合 島田村ニ在

延宝五年巳十一月島田村ヨリ曳寺ニナル

磯浜長徳寺島田村へ引替ニナル光海化

天台宗西福寺末 磐船山観音寺養福院 開山泉海

除地高一石五斗七升三合

延宝二年磐船ヨリ沼端へ引願入寺之久米村正徳元年外

ヨリ移ル故

沼端ヨリ東光台へ引永鎖トス

社家

大宮司 大塚氏

御朱印 当高六石八斗七升八合

修験大学院 二階堂下 塩崎析居明神別当

紀年

文禄二年癸巳中町屋敷割始ル 今ノ上側ハ往古ハ田面ニテ

地成テ屋シキトナル今田字ト云

衰行海岸迄関根氏六家 後ニ左右へ宿成リテ街

ヲナスユヘニ中町ト云

寛永二年乙丑関根若狭備中国七浦粟野甚十郎ト云網職人ヲ

招キ始テ大網繰ヲ作ル形状小舌ニ似テ

大ナル網ナリ

同正月二日出船其後大漁有テ十七浦浜網漁始ル

同十一月戌祝町並木植立ニナル見取山ト云若松ト緑ナルユヘ

緑山ト云ナルベシ

関根若狭ト云者宮田野端無木山野芝地

見取山 依願一円松植立ニナル 郡官ヨリ賞

祠為加思道境西北見通拝領ス

延宝二年甲寅久米村(久慈郡)ヨリ大網山願入寺磐船へ曳

寺ニナル 磐船ヨリ養福院沼端へ引ケル

同四年丙辰大津波家数三百廿軒流失ス 関根又兵衛若狭子孫

村内ニ救金千二百五十両無利息ニテ貸出ス

同五年丁巳十一月島田村ヨリ俊明山西福寺曳寺ニナル

長徳寺島田村へ引替ニナル

同七年 乙未春宮田村磯浜村ニ改ム

天保 三年癸亥大洗別当普賢院大里村へ引今来

光院ト云

(註:「玄」は旧曆九月の異名か?)

同二年己巳 大洗明神磯脇ヨリ山ノ半腹へ引セ 義公御建

立

(註:原文は「己巳」ですが、「己巳」の誤りと考え修正)

同三年庚午四月六日祝町へ天妃祠御建立ニナル 磯原村ニ

モ御建立

同五年壬申 磯浜へ新川岸始ル 南川岸北川岸 今北川岸

残レリ

元 禄 中 大洗御手洗川ヲ水樋ニテ長横町マテ引 余水

ヲ八反田用水ニ引 一町樋ニツ宛ニ ○○此

普請一ケ年余ニテ成就ス 三四年水通成就其

後止ム

同八年丁亥 祝町茶屋始テ立妓楼五軒御済シ繁栄ニ随ヒ隠

居ノ廓ト号シ外ニ軒御見済

宝永四年丁亥 大貫新川掘始ル

天保十年乙巳八月廿八日 大洗大神ヲ山ノ上へ引持ニテ建立

ス

同十二年丁未七月祝町御潰シニナル 延享四年九月再立

名勝古蹟

田辺磯 岩舟三般ニ児岩ト云 有士人之田辺磯ト云

或ハ田辺磯ハ涸沼川ノ中央大貫塚ニアリ 昔此

廻二田辺某住スト云 何れか是ナルヤ

岩船夕照 天保甲午六月上公御筆ノ碑建

金沢洗 本縁云右之壇場也 去今地可六百步本社寺藏神

刀毎行礼奉而後之此帰洗刀槍水故名世沙槇水

酒唯地名存而儀亦廢矣

車塚 大宮司ノ後ノ家ニ云 提子塚車塚ノ南ニアリ

権現台 提手塚ノ南ニアリ四方ヲ眺望シテ勝景ノ地ナリ

東ハ蒼海漫々タリ 南ハ夏海国香ノ臣夏見ヨリ

庄司居跡

鹿島浦迄一瞬ノ中ニ見 西ハ酒沼川村落ノ狭田

ヲノベタル如 遠山ハ富士峯ヲ望ミ筑波加波

我国山ヨリ笠間佐伯ノ城壁水戸ノ大城ヲ眺レ小

勝塩子ノ諸山ヨリ下毛黒髮高原那珂迄一視ノ絶

景ナリ 文政ハ乙酉六月夷舳防禦ノ官舎建望洋

館ト号ス

(註：原文は「望洋館」とありますが、「望洋館」に修正。)

柳井戸 新町後ノ岨ニアリ 村中第一ノ冷水ナリ 良公此

水ヲ飲シ 其美ヲ賞シ玉フ因テ柳井戸ト名ツク

(註：原文は「柳ナ戸」とありますが、「柳井戸」と修正。)

海岸磯目 西ヨリ東へ順ニ記ス

久下磯 大磯中町下 長磯二丁目下 大磯一丁目下

平磯 長磯二丁目下 鞍掛釜磯 大藻崎並明神町下

此ヨリ箱磯マテ九百十五其ノ主ナル者悉ク記ステ違マラス

其名曰皆漁人ノ呼フ所口意義アルニ非ス 海船ノ至ル所

箱磯ニ限トス 此ヨリ沖ニ磯ナシ

諸方行程 宝曆三年ノ写シ

大貫堺ヨリ祝町船渡迄 三十二町四十二間 川カケニテ今八十

リ(里)タルベシ

制札場ヨリ祝町船渡迄 二十六町十二間

制札場ヨリ平戸新舟渡迄 十町五十間

制札場ヨリ大貫舟渡迄 十四町廿七間

制札場ヨリ大貫堺迄 六町三十間

制札場ヨリ大洗明神迄 十三町

制札場ヨリ御城下七軒町橋迄 二里十七町廿六間半

制札場ヨリ田中木戸迄 二里十二町十間

海浅 深大 凶

箱磯岸四尋 大洗磯岸四尋 大貫堺

一丁沖 六尋余 五尋半 一ヒロ四尺

五丁沖 十一ヒロ 十ヒロ 五

十町 十四ヒロ 十三ヒロ 九

一里 五十ヒロ 十九ヒロ 十六ヒロ

昭和三十三年八月十五日写筆 原本は不明なるも、写本が茨城県

立図書館に所蔵されている。

江原忠昭 識す。